

「青年未来づくりプロジェクト」～九州編～ 新たな挑戦を楽しみ、絆を深め、繋がり活性化！！

自治労連九州ブロック協議会

7月31日に青プロ九州を開催

「青年未来づくりプロジェクト」～九州編～を7月31日、九州8県12か所をwebで結んで開催し、各県から計53人が参加しました。



(佐賀)

九州ブロックの繋がりを活性化させることを目的に、各地イチオシの食べ物や品物を贈り合って紹介し、また様々な業種の職員から仕事のやりがい等を聞き経験や悩みを共有することで、就職した時の原点の気持ちに立ち返り、今後の活力や励みになるよう交流を行いました。

各地方組織が持ち時間15分の中で、地域の紹介動画を流し、事前に決まっている職種についての悩みや現状、課題等について自由に発表する形式とし、同じものを食し、悩みを相談し合うことで、九州ブロックの交流を深め、今後の活力につなげようと企画しました。

リアル開催を模索するもコロナ感染拡大により断念、そこからの再スタート

コロナで延期となった青プロ九州2020を踏襲する形で、青プロ九州2022をスタート。

「住民のため、自分のためのいい仕事って何だろう。」をメインテーマに、自らの思いや悩みを語り合い、地方間の情報交換、次世代育成を主目的として九州ブロックの繋がりを深めようと計画を練ってきました。

プレ企画では下関市立大学の関野秀明教授をお招きし、「ここから始める組合活動・自治労連運動」と題して全4回のオンライン講座を開催し、民主的自治体労働者論への理解を深め、日本のおかれる現状について学習しました。またオンライン「だから」できることを模索し、興味のある分野で情報交換等を行う「部活動」、今後の可能性を検討するための「雑談」のLINEグループを開設し、様々な形で繋がりを持つ活動を行いました。

プレ企画を行いながら、青プロ本番は現地でのリアル開催を前提に、希望をもって議論を続けていましたが、コロナ禍の終息が見えず断念することとなりました。

コロナ禍で組合活動を失速させないためにオンラインであっても、現地開催につながるができる企画、夢を持って仕事に就いた当時の気持ちに立ち返り「住民のため、自分

のためのいい仕事」を再確認する企画をオンラインで開催することで、新たな挑戦を通して九州ブロックが一体となり、絆を深めるために本企画を行うことを全員で確認し、「青年未来づくりプロジェクト」～九州編～を再スタートさせました。



(鹿児島県の美しい与論島)

青プロ九州での各組織の取り組み

【地方組織】：発表業種

【福岡市】：屋台指導

【福岡コロニー】：介護

【北九州】：生活保護

【大分】：生活保護、就労支援

【長崎】：医療

【宮崎】：企業局（ダム、発電）

【佐賀】：保育

【熊本】：災害復

【与論】：観光・産業等離島ならではの話

【鹿児島】：国民宿舎

【沖縄】：道路



(長崎市恐竜博物館)

また、各組織の発表時間にはそれぞれ職種ごとの職員から、リアルな現場の悩みや仕事の楽しみ、あるある話、コロナ禍ならではの苦労といった生の声を聞き様々な感想が寄せられました。

「青年未来づくりプロジェクト」～九州編～では各地方組織が、それぞれの自治体の紹介動画を作成し、おすすめスポットを紹介しました。またご当地おすすめの食べ物等を贈り合い、実際に各会場で味わいながら、感想を言い合っていました。



(各県のご当地おすすめの食べ物紹介！)



(インタビューをする宮崎の上妻さん:動画)

コロナ禍での医療や保育の現場での、これまで当たり前だったことが当たり前でなくなった日常や、熊本での震災とそこからの復興の姿と課題、そのほか理想と現実のギャップに苦しんだり、逆に感謝されることで救われたりすることなど、今まで知らなかった業種の話を知ることができ、参加者が仕事に就いた当時の気持ちに立ち返る手助けになったのではないかと感じています。

震災直後の支援活動 ありがとうございました。



熊本県へ義援金届け
(猿橋中央執行委員長・当時)



甲佐町へ義援金届け
(池田九プロ議長・当時)

(熊本震災直後の支援活動)

また、会議の場でしか知らない他組織の人のリアルな職場での姿や、プライベートが垣間見え新たな発見があるとともに、今まで知らなかった業種の仕組みや苦勞、悩みを知ることによって参加者同士をより身近な存在として感じることができました。「市民の役に立つ仕事ができることに、感謝や喜び、やりがいを感じ、それが自分のためになる」「コロナが落ち着いたらおすすめスポットに行ってみたい」「このオンライン開催をやったからこそ、次はリアルで会いたい、リアルでの活動を行いたい気持ちが強まった」といった感想が寄せられました。

青プロ本企画終了と今後の希望

青プロ本企画は終了し、9月に実行委員がオンラインにてこれまでの振り返りを行う予定です。

本企画を終えて、感染拡大で断念せざるを得なかった沖縄リアル開催を行いたいという気持ちを強めました。このコロナ禍で培ったオンラインの活用、今回深めた絆を生かして、より楽しく、実りのある沖縄リアル開催での企画を考えていきたいと思います。この青プロ企画を通して青年が集まることの意義、繋がりを持つことで発揮できるエネルギーの強さを実感しました。九州ブロック内の結束をこれからも深め、大きなエネルギーとして今後の組合活動に活かしていきたいと考えます。